301
10
帙入

傳紀貴ゝく高聖切 第三種 (兩)

始

301
10

傳紀貫之書

高野切

第三種（丙）

釋文

301
10

傳紀貫之筆　高野切　解題並釋文

解題

この高野切第三種(丙)は古今和歌集卷十八雜歌下卷十九雜體を書寫したもので他の二種よりも流麗些の澁滯もなく一氣呵成に書き終り且つ彈力に富んで居る。換言すれば瀟洒流麗の點に於て他の二種よりも凌駕して居るともいへよう。いづれにしてもこの高野切(丙)は勿論紀貫之の筆でないことは明かであるが併し筆者は何人にせよ何れも優劣を定め難き草假名文字中の神品で古今獨歩の名蹟である。之れと同一筆者と思はるものに帝室御物傳藤原行成筆粘葉帖唐紙朗詠集及び伊豫松平伯舊藏傳藤原行成筆伊豫切朗詠集がある。

釋文

よみひとしら須

あはれて不ことのはことにおくつゆはむ
可しをこふる那み多なり个利
よ能な可のうき毛徒らきもつけ那久に
ま徒しる毛のはなみ多那りけ利
與の那可はゆめ可う徒ゝかうつゝと毛ゆめ
と毛しら須ありてなけれ者
をのゝはるかせ
あまひこの於とつれしとそいま者おも
ふわれ可ひと可とみを多登るよ爾
徒可さとけ氐はへりけるとき支によめる

多ひらのさたふむ
うきよに者可とさせりともみえなく
になと可わかみのろて可てに春る
ありはてぬい能ちま徒まのほて多爾
もうきことしけ久おもは春毛可那
みこの美や能多ち者きにはへり
けるをみや徒可へ徒可うまつら須と
てと个てはへりけると支爾
みやちのきよ支
徒久はねのこ能毛可のもに多ち所よ
るはるのみやまの可けをこひつゝ
と支なりけるひとの爾は可爾とき
那く奈りてな个くをみてみつ可ら

能なけき毛那久よろこひも那きこ
とをおもひてよめる

きよはらのふ可や不
ひ可りなき多爾ゝはゝる毛よそなれ者
さきてとくちる毛のおもひも奈し

伊勢

ひさ可た能な可爾於ひ多るさと那禮者
悲可りをの美そ多のむへらなる
き能としさた可あはの春け爾てま可
利けるときにむまのは那む个せむ
とてけふといひ於久れりける爾こゝか
しこま可りあ利きてよふくるまて
みえさりけれ者よみてつ可はし个る

ありはらのな利ひらの朝臣
いまそしる久るしきものとひとまたむさ
とをは可れ春とふつ可りけ利

これ多可能みこのもとに可よひけるを
かしら於ろしてをのといふところには
へりけるときにむつき爾とふらはむ

と氐ま可りてはへりける爾ひえ能
やまもとな利个れはゆきいと不可ゝ利
けれとしひて可のむろにま可りい多
利てを可みけるにつれ〳〵としていと
毛の可那し久て可へりまうてきて
よみて於久りける

王春れつゝ由め可とそ於もふおもひ支や

ゆきふみわ个てき美をみむと者
むねを可の於本よりかこしよ利
まうてき多りけると支に毛の可
多りなとしはへり个るにゆ支の
ふ利けるをみ氐於の可おもひこ能
ゆ支のこと奈んつもれるといひける
を利によめる
きみ可於毛ひゆきとつ毛らは多のま
れ春はるよりのちはあらしとおもへ盤
可へし

お本より
支みをのみおもひこしちのしらやまは
いつ可はゆきの支ゆるとき能ある

こしなるひとにつ可はしけ累
徒らゆき
おもひやるこし能しらねのしらねとも
悲とよ毛ゆめのこえぬよそ那き
ならへま可りけるときにあれ多る
いへ爾をむな能ことひ支个るを支ゝ
てよみ氐いれ多りける

よしみねのむねさた
わひゝとの春无へ支さとゝみる那へに
な个き久はれることのねそ春る
貞觀御時爾萬葉集はいつ者可り徒
久れる所とゝはせ多まひ个れはよみ
て多てまつりける

ふむやのありま

可み那つきしくれふり於个るならのは

能な爾於ふみやのふること所これ

寛平能御時爾うたゝてまつりける

徒いて爾たてまつりける

大江のちさ登

あし多つのひとり於久れてなくこゑ

はく毛能うへ萬氏きこ江つ可那む

ふちはらの可ちお无

悲としれ春於もふこゝろはゝる可春み

多ちてて支み可めにもみえ奈ん

うたをめしけると支に多て

まつると氏よみて於久爾可支徒

伊勢

け底たてまつりける

やま可はの於と爾のみきく毛ゝし支

をみ乎者やな可らみるよし毛可那

巻第十八

旋頭歌

多いし羅數

與微飛東之ら須

有地王多數遠知可堂悲東耳母乃

滿憂春和禮處濃所期爾之呂久散

遺る波難耳能者奈所毛

賀邊氏

波る斜禮者乃陪耳滿都佐久美

麗登阿閑ぬ盤那萬飛奈之兒
多ゝ爾能流邊幾波奈乃那ゝ禮や
たいしら須

はつせ可はふる可者のへにふ多毛とある
春きとしをへ氐ま多毛あひみむ
ふ多毛とある春き

貫之

きみ可さ須美可さのやまの毛みちは
能いろ可み那つきし久れ能あめ能所
める那り个利

誹諧哥

たいしら數

よみひとしら須

むめ能者那み爾こそ支つれうくひ春の
ひとく/\とい東ひし毛をる

素性法師

やまふきの者那いろころもぬしや多れと
へとこ多へ春くちなし爾志して

藤原敏行朝臣

い久はくの多をつ久れは可ほとゝき須
志て能たをさをあさ那/\よふ

ふむつきのむゆ可能日多那者た
のこゝろをよみける

ふちはらの可ね春个
いつし可とまた久こゝろをはき爾あけ氐
あま能可はらをけふやわたらむ

たいしら春

凡河内躬恒

む徒こと毛またつきなくにあけ爾个利
いつらはあ支のなかしてふよ者

僧正遍照

あきのゝになまめきたてるをみ那
へ志あ那可し可ま志者那はひとゝき

よみひとしら春

あきくれはのへ爾多はるゝをみ那
いつれのひと可徒萬て春久へき
あ支ゝ利能はれ底くもれはをみ那
し者那の春可た毛みえ可くれ春る
はなとみ底をらんと春れはをみ那

へしうたゝるさま能な爾こそあ利个れ

寛平の御時能きさい能みや能う

たあはせのうた

あ利はらのむねや那
あき可せに本ころひぬらしふちは可
まつゝ利させてふき利〳〵春那く
あ須はる多ゝむとしけるひと那り
能いへの可多より可せのゆきをふ支
こしけるをみてそ能と那り能つ可
者し个累

きよはらのふ可や不
ふゆなれと者るのと那りのち可けれは
那可きより所者なはちりける

多いしら春

よみひ東しら數

於もへと无な保うとまれぬ者る可須み
可ゝらぬやまのあらしとお毛へ者

多ひらのさたふん

はるのゝ能し遺支久さはのつまこひ爾
とひ多つきしのほろ〳〵とそ那久

よみひとしら春

那个きをはかり能み徒めてあしひき
のやまの可ひなく那りぬへらな利
ひとこふることをおも爾と於もひ毛て
あふこ那きこ所わひし可利个れ
よひのまにいててていりぬるみ可つきの

われ氏ものお毛ふころ爾もある可那
そゑ爾とてと春れは可か利かく春れ
はあ那いひしら春あふさ支るさに
よの那可のうき多ひことにみを那个は
ふ可支多にこ所あさく奈り那め

在原元方

世中はい可爾くるしとおもふらんこゝ
らのひとにうらみらるれは

よみひとしら須

な爾をしてみのい多つらにおいぬらんと
し能おもはむことそやさしき

おき可せ

美は春て徒こゝろを多にもはふら

さしつひ爾はいかゝ那るとしるへく
千里
しらゆきのともにわかみはふりぬれと
こゝろは支えぬものにそありける
多いしら春

よみひとしら數
うめ能者那さ支てのゝち能みなれ者や
春きものと能みひと能いふらん

昭和十二年十一月廿五日印刷
昭和十二年十一月廿七日發行
定價金貳圓參拾錢

發行所　東京市下谷區中御徒町七三
武田書店
振替口座東京六五〇三五五番

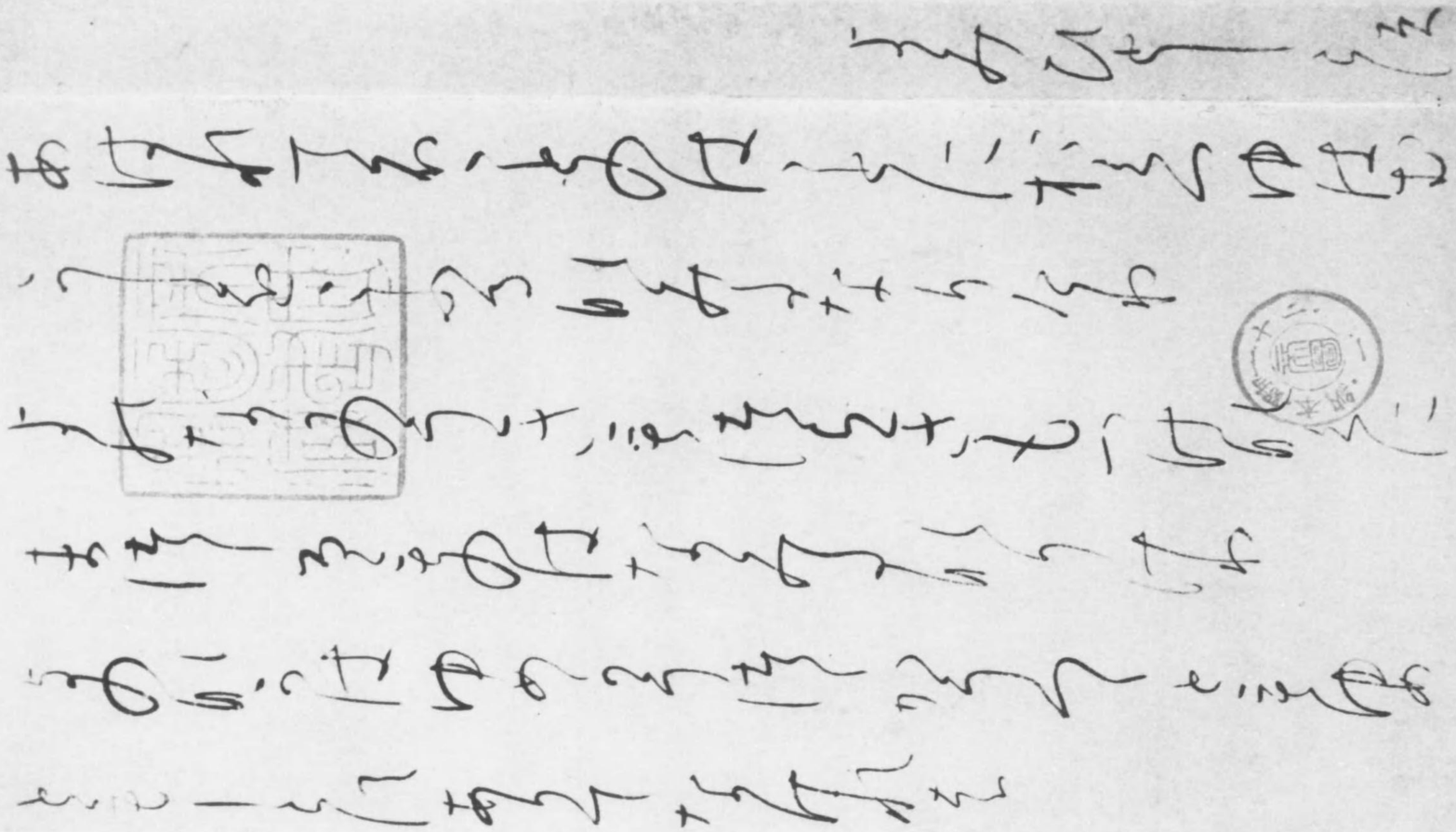
編輯兼發行人　東京市下谷區中御徒町七三
武田雄二郎

印刷人　東京市麻布區霞町六番地
黑川國雄

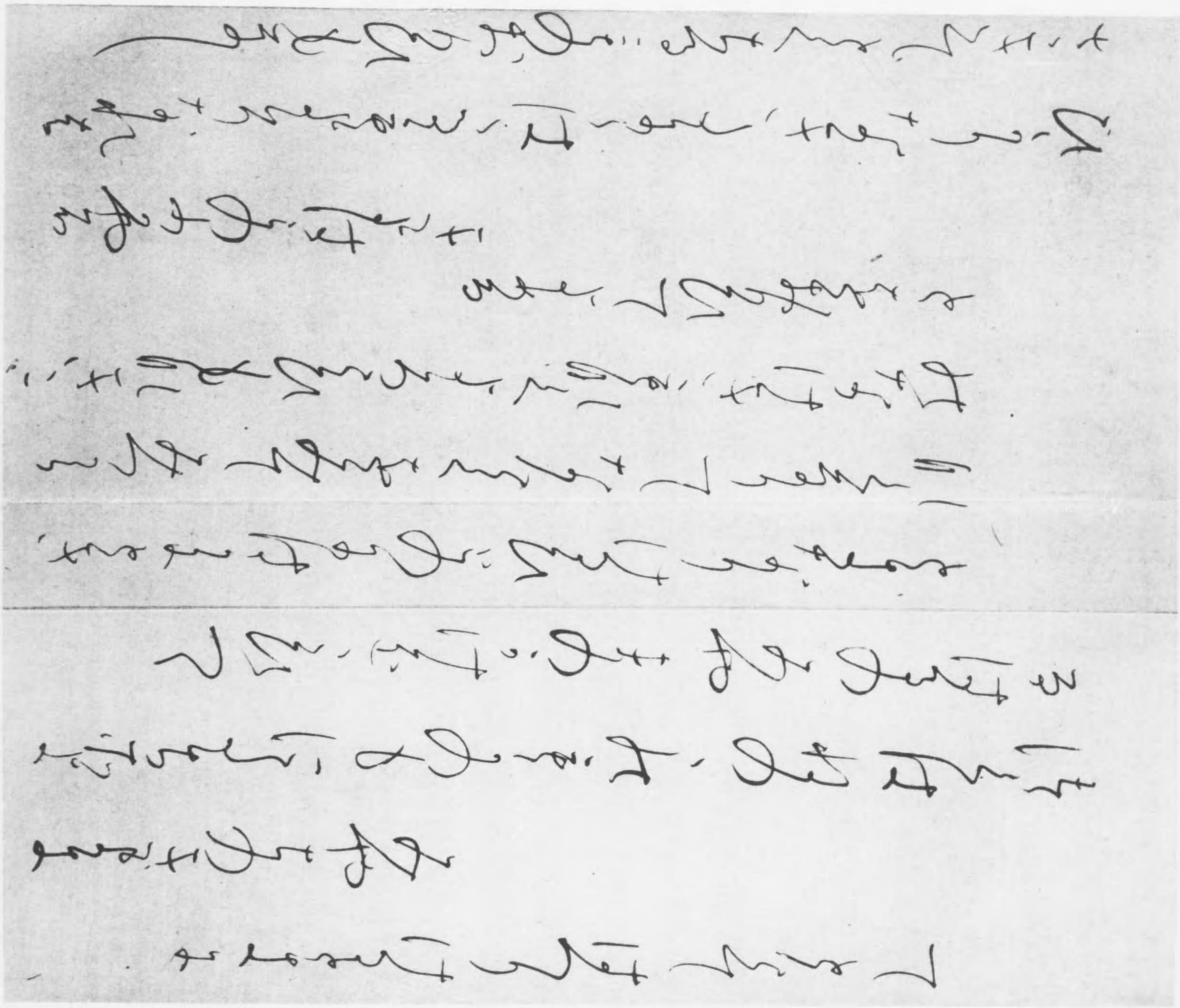
東京市下谷區中御徒町七三
武田書店
代表者　武田雄二郎

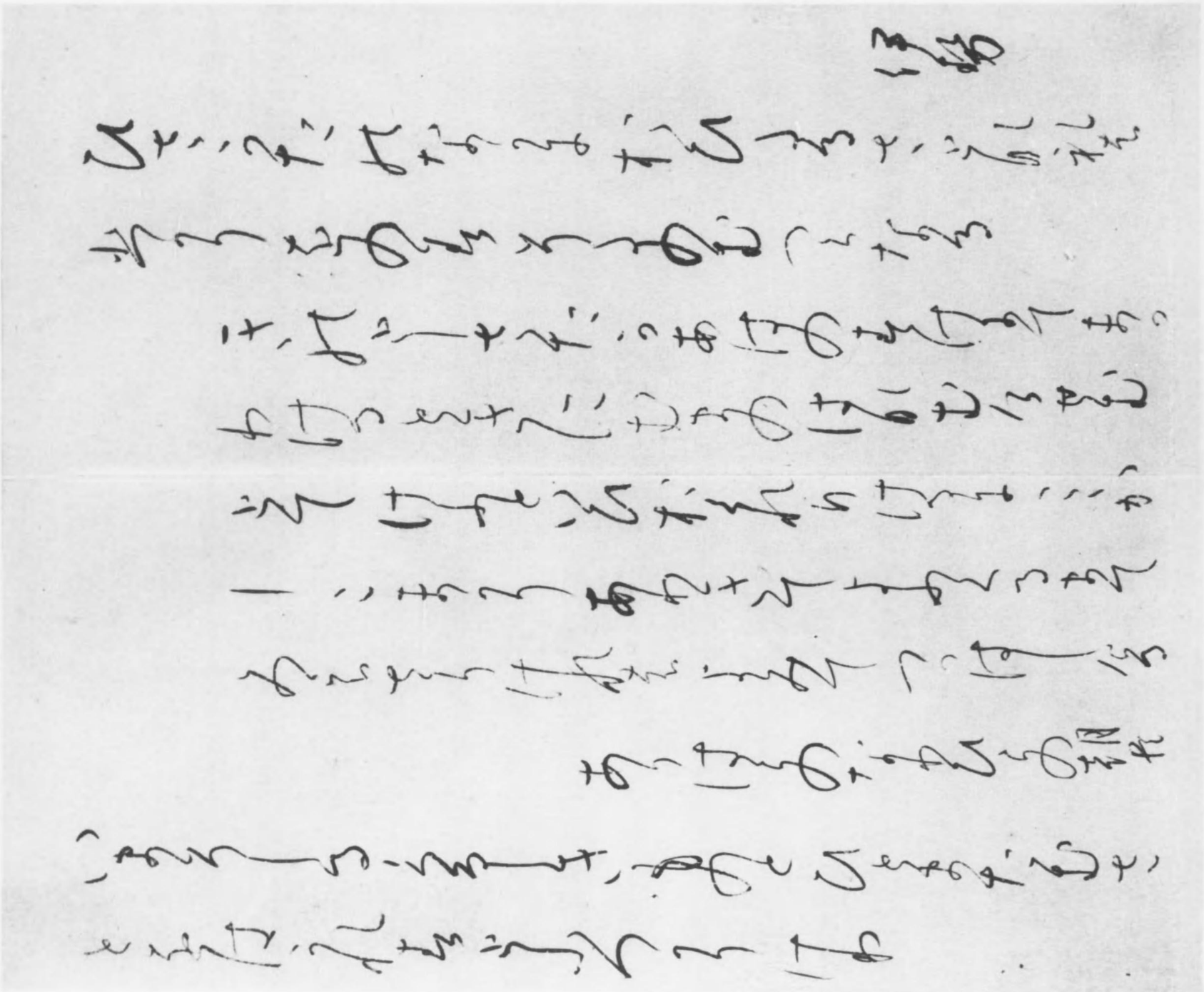
東京市下谷區中御徒町七三
共榮印刷株式會社

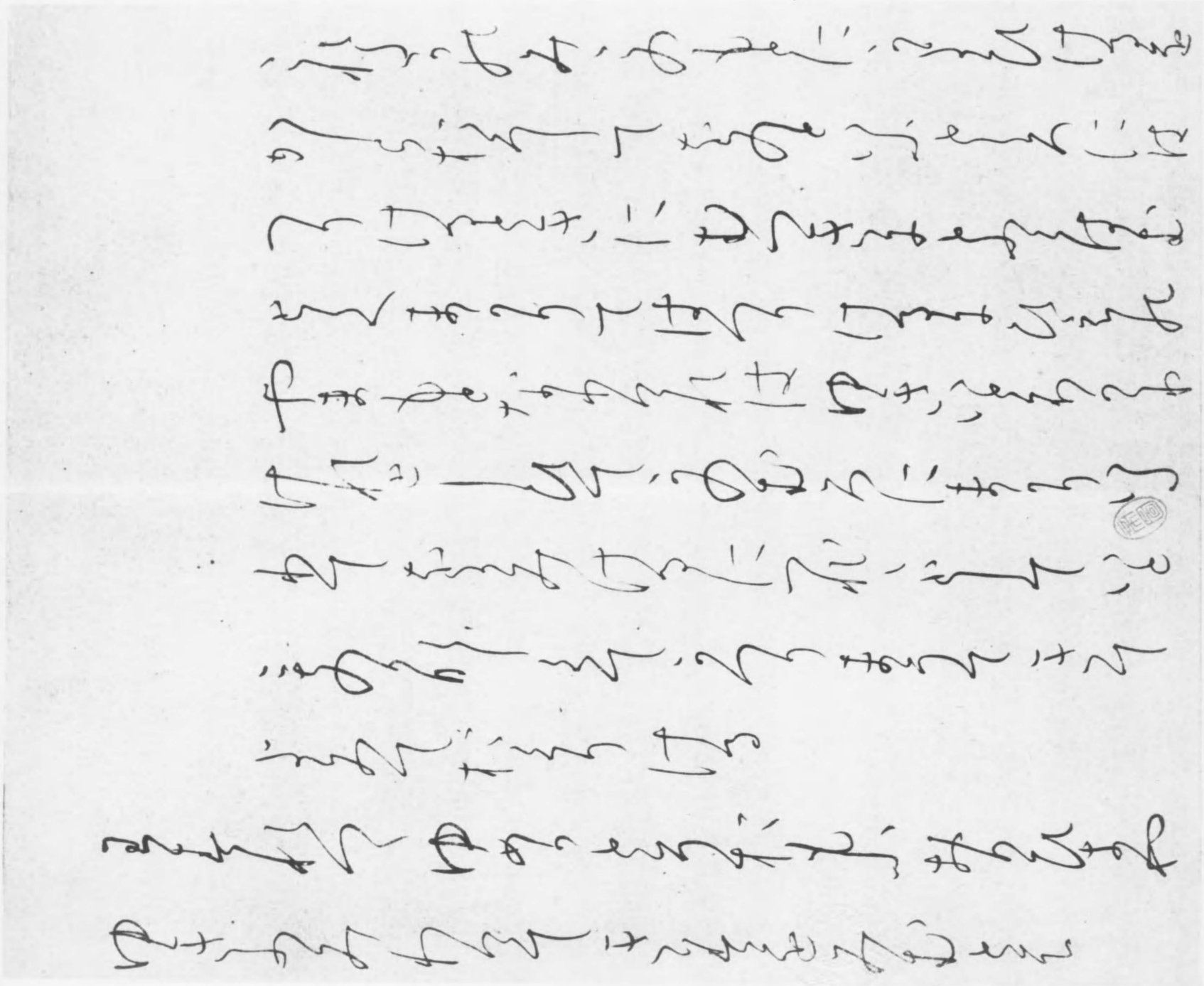
301
10

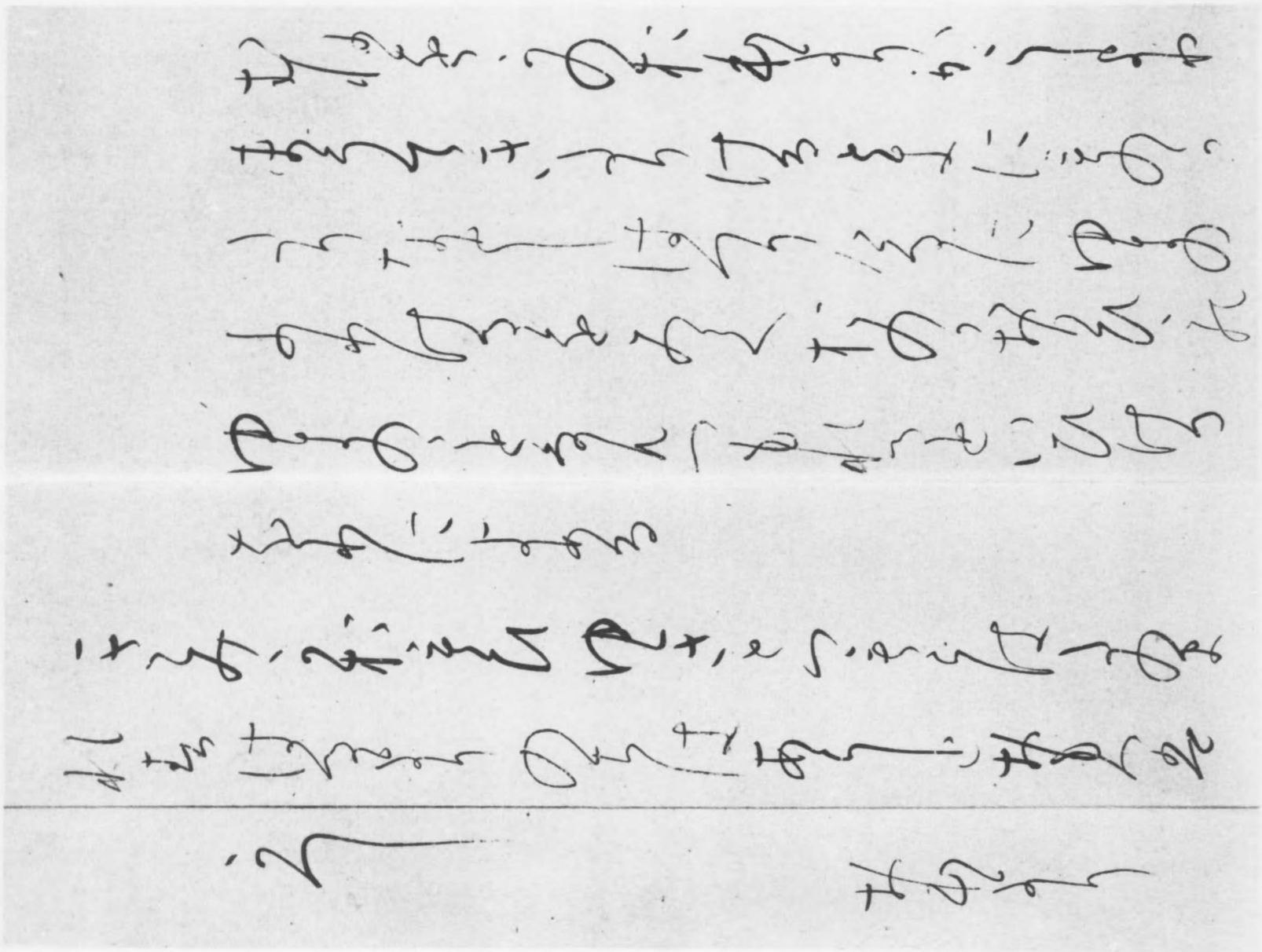


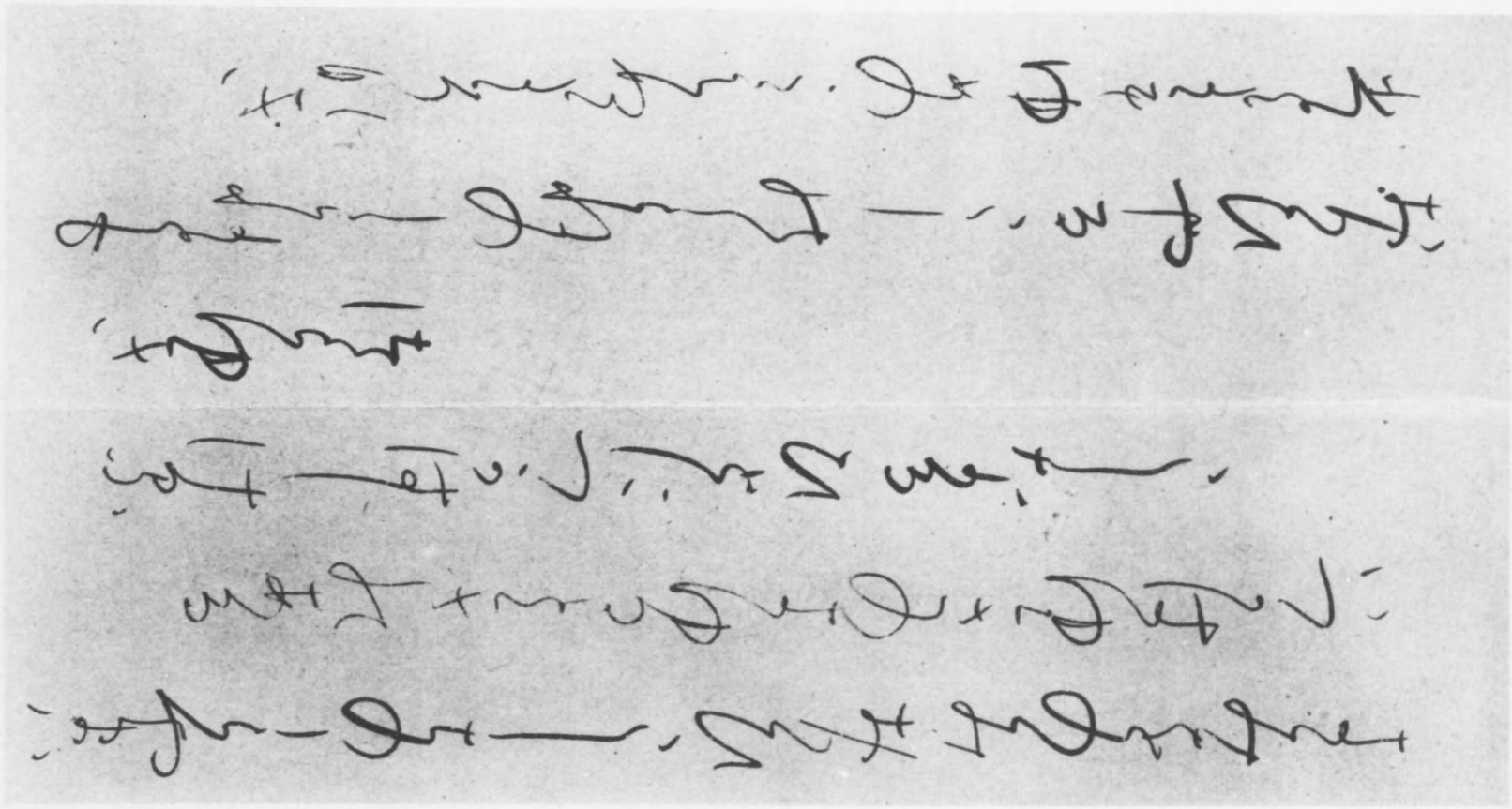
あまひこのおとれーとうまちおも　をのはるかや
ふわのひびらとみをぶるよ
はつそぶけくはつけてにぶあら
うまぶに、まてこさそりともみるなく　ひみのさたふむ
になるわるみのいてってにまる
ありはてねいれちまはちのほとよ
もうまふとはけくおもはまをれ
みこのをわけをちをさにはう
けををわはちをうまてはと











なんまうけるをさたにあれる
いつるをもなれいふひまうをを、
てふるくいたうける

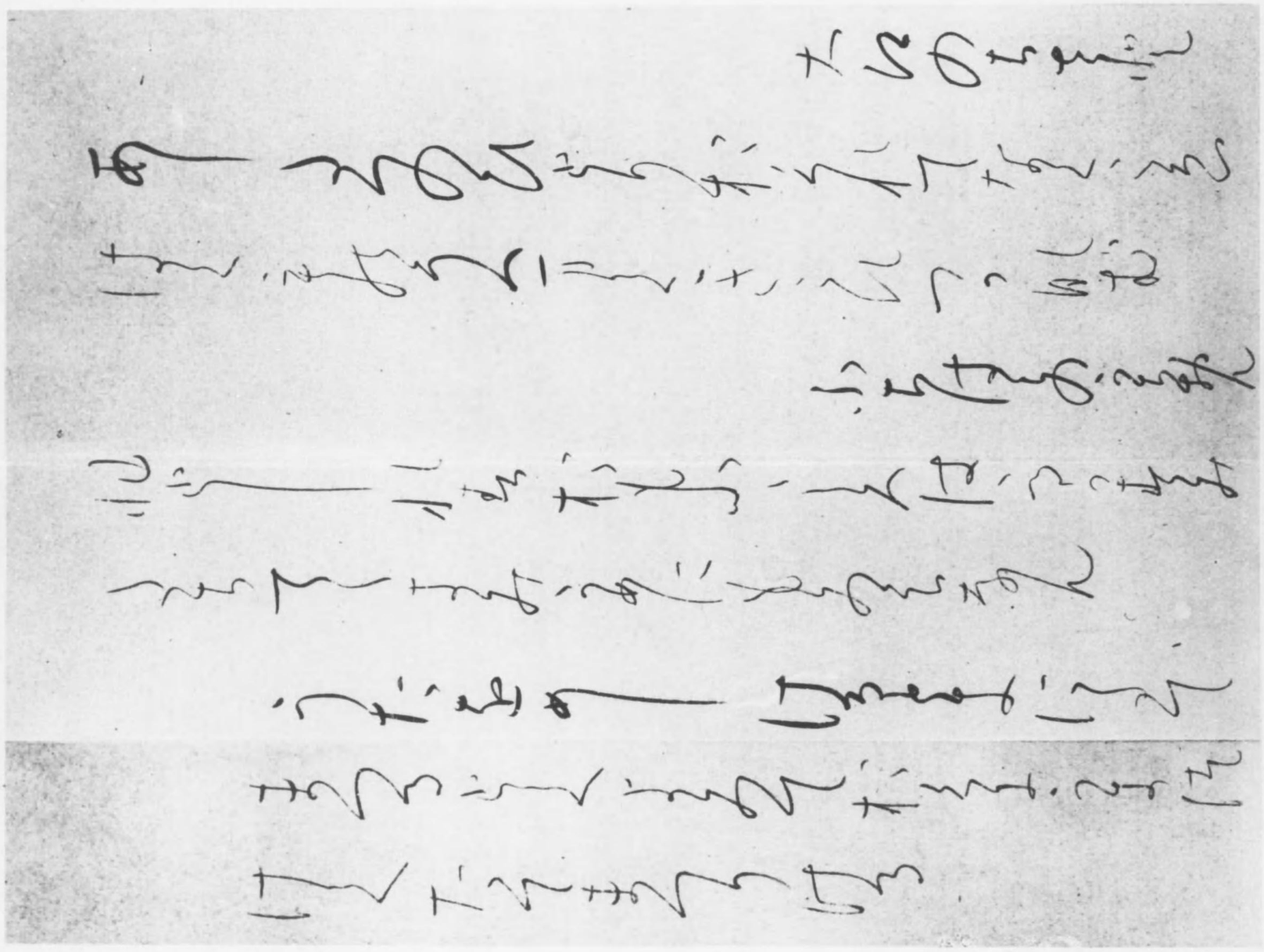
ゆみねのむねをた
ちひしをのまうてまさふさふるれつよ
なをさふはれるいふをのねうまる

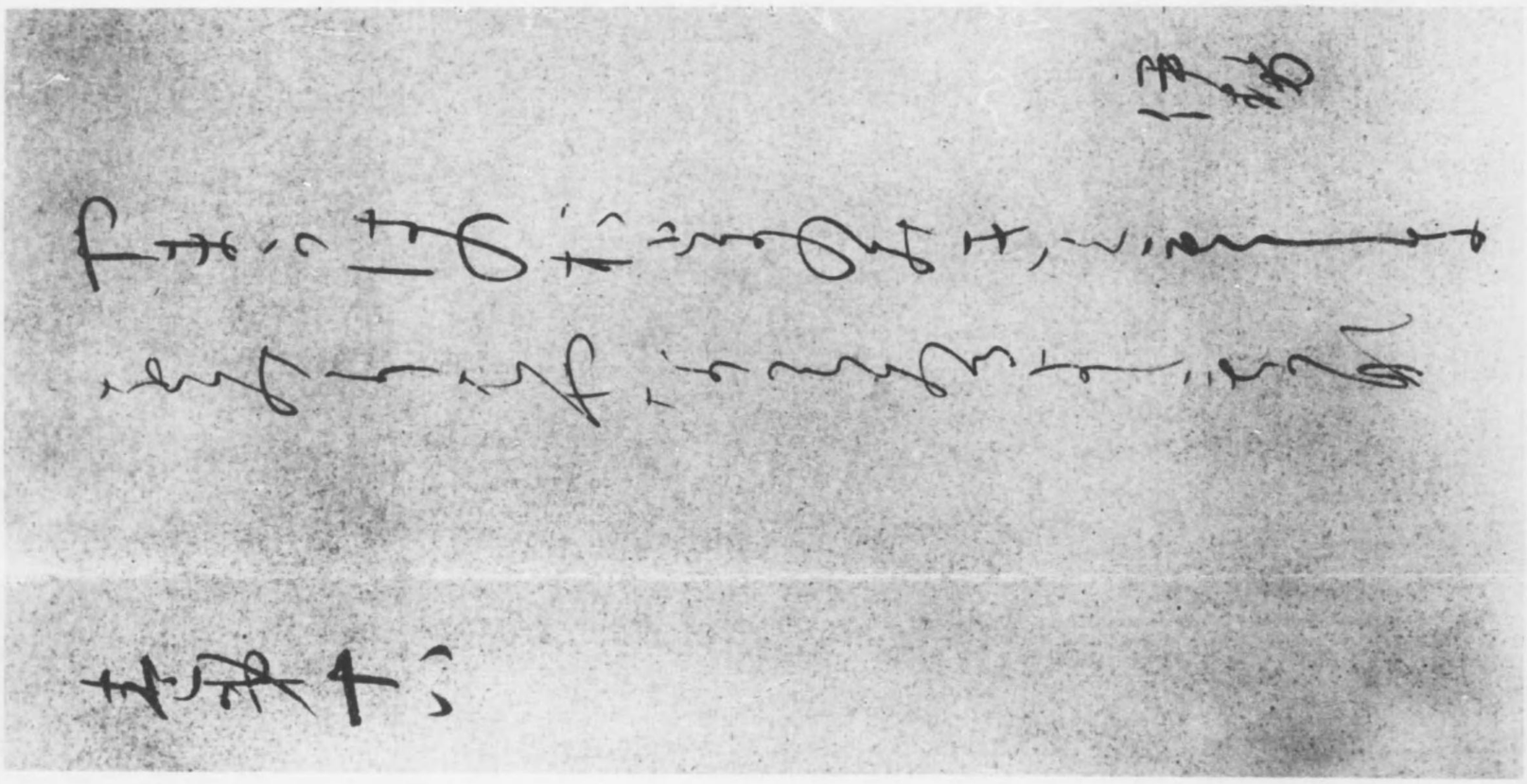
貞観伝は万葉集はいつうりた
うたるたをいはやまもれうれはまみ
てうそまうける

少将のありま

えみかつきーうれ
はなるおもみやのふるふをれ

完平伝時うたうたーてまうける
はいてよたそまうける





旋頭歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

謝潜哥

たゝ一ゝあ　　ぢゑひとゝ伝

むめをれみまゝそまれうゝひまの
ひとくゝといまひしゝもそる

京性法師

やまのさのゝれいろもわやれと
つゝゝゝもゝゝなりまして

藤原敏行朝臣

いゝはゝのをつゝれはっほゝゝ伝
ゝゝのたをゝあゝいよ

ふむてゝのむゆゝみるゝれゝた
のゝゝをまける

[illegible]

[illegible]

[illegible]

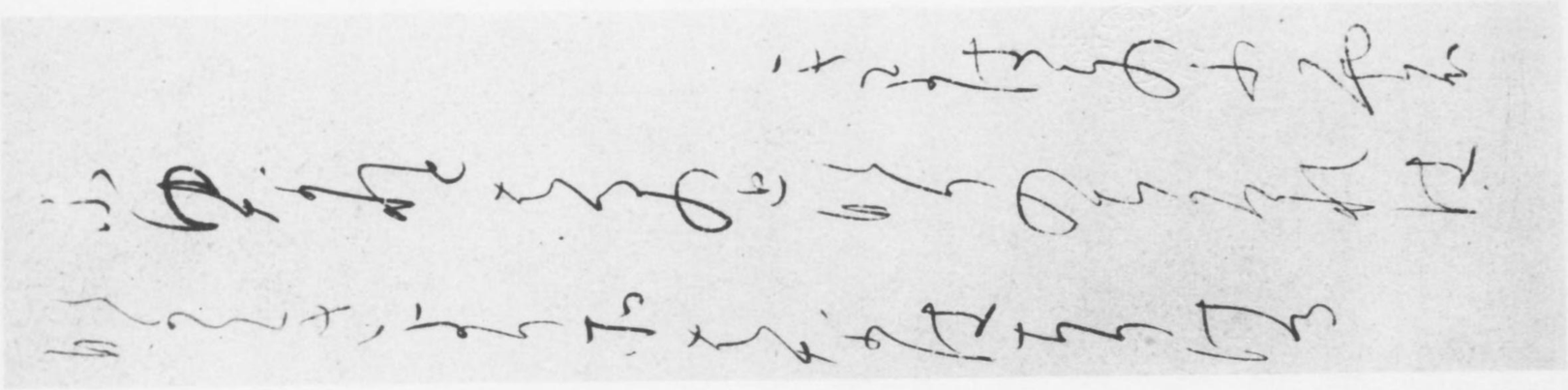
[illegible]

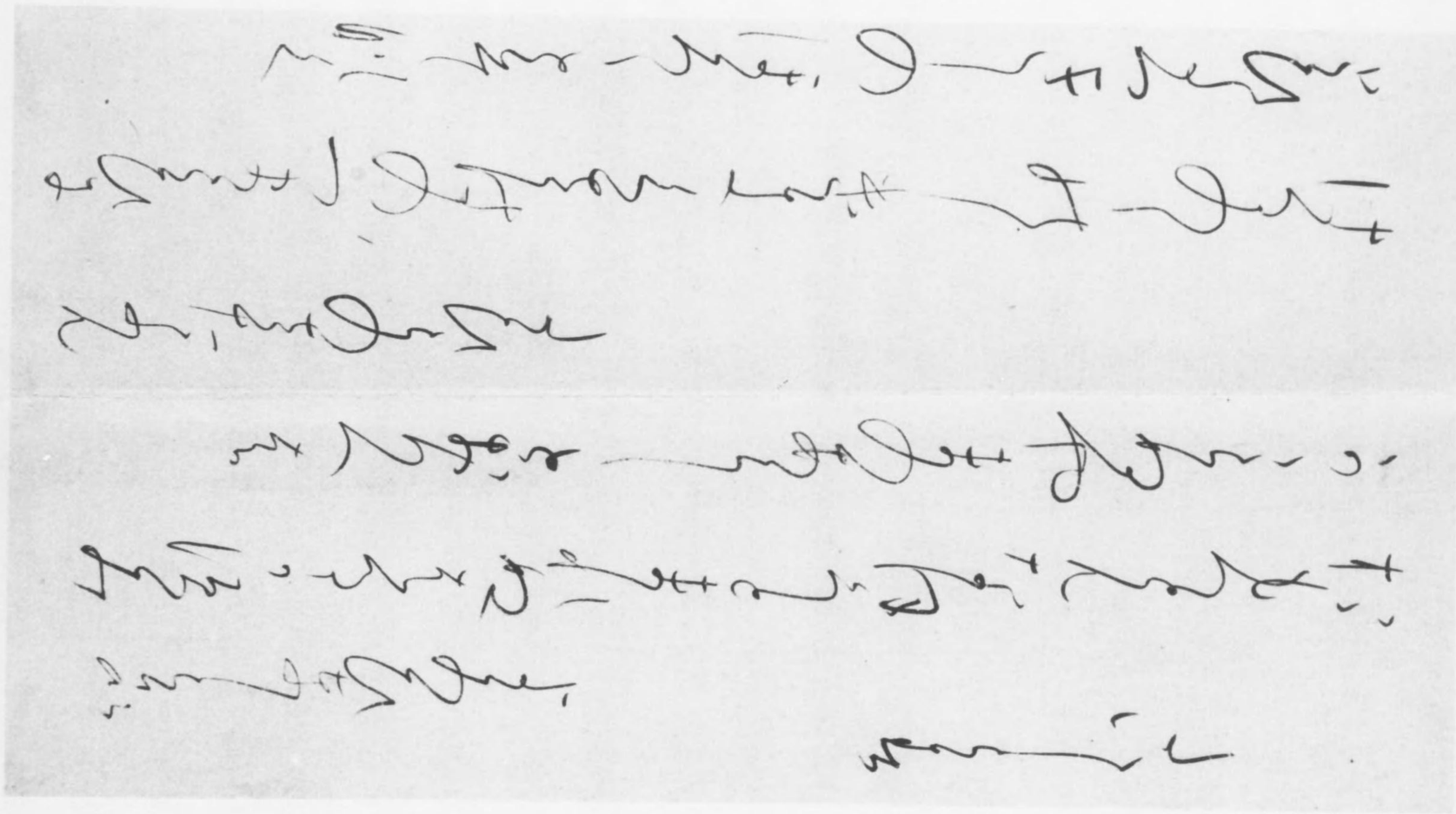
[illegible]

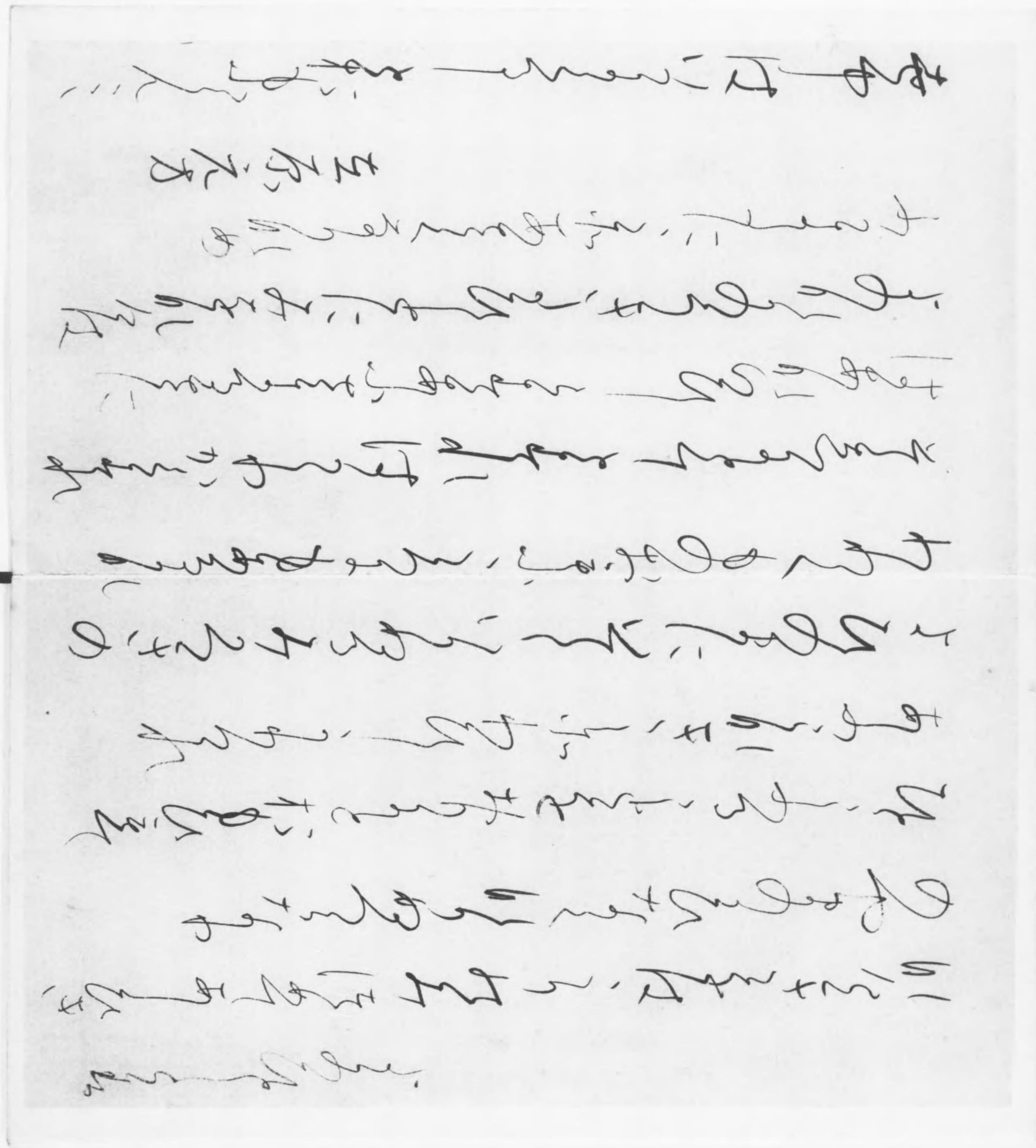
[illegible]

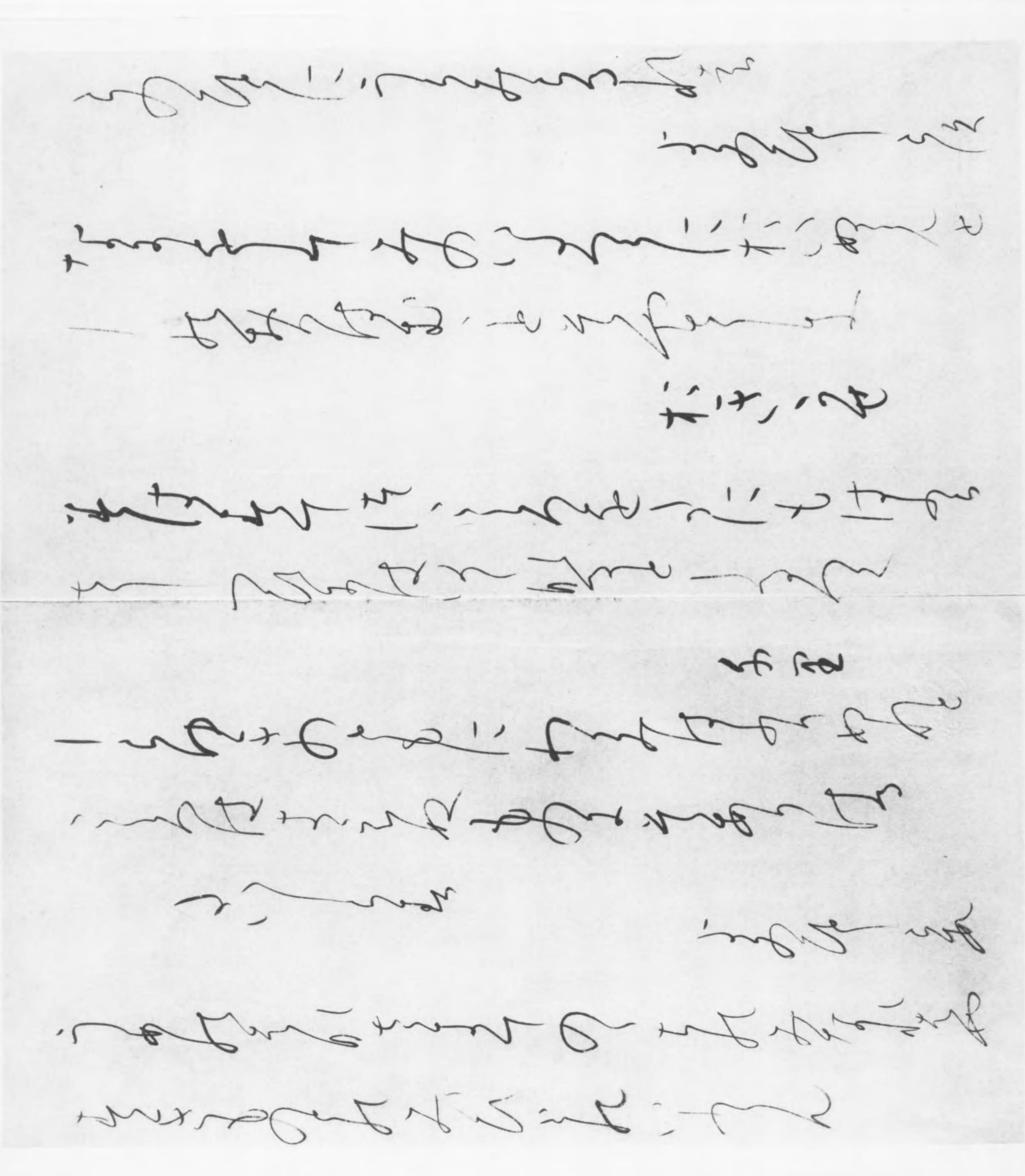
あまくもれはわくくもれはをみ
しさらのもうたゝきみるこれる
はなもみくさをんともれはをれ
うたゝうをまはなをうあれ
完まのはれこさいはみわら
たあはをのうら

あわはあむわし
あさうをにをいうひはふちはの
まつわををふこおいもしく
あはをはうこむをけるひかう
はいのうをのゆさをを
こけるをみをそうはりはる
をを









301
10

かな名蹟全集 第九輯
高野切 第三種（丙）

昭和十一年十一月廿一日印刷
昭和十一年十一月廿五日發行
定價金貳圓參拾錢

編輯者 東京市下谷區中根岸町七二 武田恭彰堂内 かな名蹟全集刊行會 代表者 武田恭一
發行人 東京市下谷區中根岸町七二 武田恭一
印刷人 東京市荒川區尾久仲町六丁目一八〇 黒川秀藏
發行所 東京市下谷區中根岸町七二 武田恭彰堂 電話根岸三五七番 振替東京六〇五四八番

終